



発行 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857 静岡県三島市芝本町1-43
TEL 055(983)0136 FAX 055(973)0022
URL <http://www.gwmishima.jp/>
E-mail info@gwmishima.jp

みんなで協力 身近な環境改善
グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)



JR三島駅南口から徒歩2分の三島市立公園楽寿園(2万坪)の森と、富士山からの湧水が満水の小浜池と歴史的な建物・楽寿館を、「三島街中カフェ」で開催のパソコン講座受講生が、2011年10月26日に撮影

Ⅲ期グラウンドワーク・インターンシップ集合研修完了!

Ⅲ期GW Iの集合研修は口コミで人気が広がり、A~G日程の予定をH日程まで増やし各200人の合計約1,600人が参加した。しかも、キャンセル待ち1,000人という、おまけまで付いて。「先進的な現場モデルや実践事例を学び、元気なNPOや地域ビジネスを立ち上げませんか?」の呼び掛けに全国から希望者が参集し、熱心に研修していった。

9月25日の夜には、イギリスから駆け付け集合研修の講師を務めたロビン・ヘンショウ氏と小山善彦氏を囲み、GW三島主催の親睦会が開催された。来年はGW三島が創立20周年を迎える。20周年には何をしようかという話題も出て、発展を続けるGW三島の未来に乾杯と、大いに盛り上がった。

イギリスの名曲でも、お聞かせしましょうか?僕を見つめないでね!



ギターを弾くロビン・ヘンショウ氏

ようこそ！海外からGW三島の視察に！

GW三島へは、国内だけでなく、海外からの視察者もいらっしゃいます。水辺を中心に三島市街地の実践地を熱心に回り、母国に参考となるところを持ち帰っています。

韓国から【7月8日（金）】

バイオトイレに関心のある韓国からの視察者とは、済州島でも既に出会っています。今回は、バイオトイレの屋根にまで上って、設備や仕組みを覗くほど研究熱心でした。



台湾から【8月25日（水）】

三島の水辺を小松幸子理事の案内で回り、渡辺豊博事務局長の講義を受け、「バイリンガル環境かるた」体験や、GW三島の関係市民団体との意見交換を実施した意欲的な「台日河川団体」で、昨年視察来島した人もいました。



中国から【8月28日（土）】

中国全土から約 80 人の環境に関心のある若者が訪れ、三島の水辺をグループ毎に散策しました。丁度GW I のD日程開催中で、国際交流等に関心のある人もホテルでの交流会へ加わり、100人以上の会話ははずみました。



「グラウンドワーク・インターンシップ」集合研修を終えて

平成 22 年 3 月より、全国のグラウンドワーク 9 団体との協働により、内閣府「地域社会雇用創造事業」の一環として「グラウンドワーク・インターンシップ」を実施してきました。最大の目玉は、各回、全国より 200 名ほどが三島市に集ってグラウンドワーク三島の「現場モデル」を学ぶ集合研修です。



現場で汗を流し、講義で学び、そしてグループワークで夢を語り合いの 5 日間。加えて、毎晩、街中に繰り出し、賑やかに交友を深めました。「渡辺事務局長の熱い話に魂を揺さぶられました」「グラウンドワーク三島の皆さんのホスピタリティと笑顔が印象的でした」などのコメントが多く寄せられ、「現場モデル」の要は、「人」であることを痛感しました。受講者による口コミ効果は大きく、2,400 名の募集に対して、3,700 名を超える方より申込みが殺到し、急きょ補講を開催するなど、事務局もフル稼働の毎日でした。ご支援いただいた皆さま、どうもありがとうございました。

実践地視察で現地説明を担当して下さった方々



鎧坂ミニ公園 リニューアル作業



三島市文教町の北消防署隣にある「鎧坂ミニ公園」は、小学校、中学校、高等学校などの通学路に面している。現在、文教町の中村信男さんご夫妻を中心に地元住民の皆さんが、愛着をもって維持管理を担っており、街中の素敵な緑陰空間となっている。

炎天下での刈り込み作業 ここは、平成 5（1993）年 11 月ゴミ捨て場化していた遊休地を、GW三島が調整役となり、町内会、子ども会、老人会とが一体化し、行政と地元企業との協力により、地域総参加型で作った約 40 坪のミニ公園。開園から 18 年が経過しているが、今もきれいに維持管理されている。

今回、園内のツバキやツツジの生け垣が大きくなったことから、リニューアル作業を実施した。9 月 13 日、中村さんと、GW三島のインストラクター、スタッフ等 8 人で生け垣の剪定や草刈り作業などをした。搬出した草や枝は、軽トラック 2 台分にもなった。GW三島では、今後も地域住民の活動をサポートし、この公園を守っていきたいと考えている。



リニューアル作業中

夜に鳴く虫の観察会



松毛川は、狩野川原風景である河畔林が今も残り、全国的に見ても貴重な自然環境のサンクチュアリーといえる。

9 月 18 日、秋の風物詩・夜に鳴く虫の観察会を実施した。近隣小学生親子（43 名）を中心に、参加者は秋の夜に鳴く虫の声を楽しんだ。

参加した子どもたちは声を頼りに虫を捕まえ、講師の杉本 武さん、加須屋 真さんから昆虫の名前や特徴などを教わった。

この日観察された昆虫は、エンマコオロギ、カマドコオロギ、ハラオカメコオロギ、アオマツムシ、クマズムシ、カンタン、ハタケノウマオイなど 15 種類以上の昆虫。



再び、清い流れを求めて

三島市泉町に在住 塚田 冷子さん



幼いころの記憶では、水が豊富に流れているのは当たり前で、両親からも、それが富士山からの湧水だと改めて聞いたことはなかった。楽寿園から流れ出る宮さんの川も、多くの子どもたちの泳ぎ場として賑わっていた。



広瀬橋辺りから富士山を望む
昭和初期の源兵衛川

塚田家に嫁いだころも水は豊富で、あるとき、台所の床板の隙間からゆらゆらと反射する光が見えた。床板を上げると、貯蔵庫として利用していたあたりに水が湧いていた。その水はいつのまにか引いた。

湧水は例年、冬には水量が減っても4月には増え、5月には田植えができた。ところが昭和37年頃から水が涸れて田植えができなくなり、企業から一時冷却水を流してもらうようになった。それまで水が豊富だった宮さんの川付近には防災用の設備がなく、火災の不安から、川に水が必要だと消防署に要望に行き、楽寿園の三景橋付近の水路からの水が流れるようになった。この活動が後年、「宮さんの川を守る会」にもつながっていった。



子どもたちの河童天国だった
塚田邸前の宮さんの川。水し
ぶきをあげて遊ぶ子どもの中
には、ふんどし姿も見られた。



水量豊かな昭和初期の源兵衛川

「三島ゆうすい会」「宮さんの川を守る会」の会長であり、「三島ホテルの会」の副会長も務める塚田冷子さんのお宅の庭には、ホテルの幼虫を育てる「ほたるの館」があり、邸内のせせらぎにはカワナもいる。昔懐かしい水琴窟からは、心に沁みる音色が聞こえる。

塚田さんは35年間毎朝、宮さんの川掃除を続けているという。その掃除を始めたころから現在までの毎日の記録を綴ったノートや、昭和9年発行「三島川系統図」などの資料、たくさんの写真を広げ、あふれる湧水の中で育った思い出、涸れてしまってから湧水復活への活動、子どもたちへ託す水への思いなどを語った。



塚田邸の庭では、昔からの行事を伝える「七草粥とわらべ唄のつどい」が毎年行われている



三島ニュースの堀内皇富士さんから頂いた新聞のスクラップ



塚田さんがとても気に入っていて、早春には部屋に飾るとい
う貝合わせと縮緬のお雛さま



伊豆古奈にて、女優・山田五十鈴、俳優・榎本健一、塚田冷子さんの叔父、俳優・長谷川一夫（当時の名は林長二郎）

ロビン・ヘンショウ氏、日本文化もいろいろ体験



水野幾子さん、ホームステイもありがとう！



びっくり！我が家にロビン・ヘンショウ氏がホームステイ！

水野 幾子（GW三島評議員）

「私のこと、覚えていますか？」「勿論ですよ。確か19年前、イギリスでお会いしましたよね」。これがロビン・ヘンショウ氏との今回の最初の会話でした。三島にイギリスのGWを取り入れた翌年の平成5（1993）年、GW三島から19名がGW研修に出かけたのは、まさに19年前のことでした。その時私たちを指導して下さった方が、まさか我が家にホームステイされようとは。

昨年GW I が始まり、講師としてヘンショウ氏は何度か来日し、毎回ホテルでしたが今回はホームステイを希望されたということで、我が家に2泊3日の短いホームステイをすることになりました。私の所属するグローバル文化交流協会には、ヘンショウ氏の講義を聞き、直接質問したいという人もいて、数名が家に集まり、質問やおしゃべりに花を咲かせました。子供の教育についても、国が違くと対応の方法も様々だと思いました。

夕食は、今や世界的に知られるようになった回転寿司に行くことにしました。ヘンショウ氏もお寿司の経験はありましたが、回転寿司は初めてとのこと。注文品がミニチュア新幹線に乗って来るのが何とも面白かったようでした。イカとタコは全く苦手で、お気に入りにはマグロとエビ。どんどん重なるお皿の数に目を白黒させ、面白がって写真を撮っていました。夜は居間で世界遺産のビデオを楽しみ、その後は個室で翌日の講義の準備をしたようでした。

次の日、午前の講義の後、ヘンショウ氏の趣味のバード・ウォッチングを楽しむため、箱根の恩賜公園と箱根神社に友達5人と車で出かけました。天気も良く人混みもない静かな公園の散歩道では、彼はときどき鳴く小鳥

の姿を、双眼鏡でじっと眺めていました。さすがに鳥の名前には詳しく、私たちに教えてくれました。かなり歩いて疲れたのか、帰りは車中でお休みでした。

夜は彼の大好物のビーフ・ステーキ。アルコールも入りご満悦。かなりお茶目なところもあり、皆で冗談を言って楽しみ、その晩はとても良く眠れたとのことでした。

3日目は授業もなかったもので、例のメンバーたちと富士宮の田貫湖と富士国際花園、白糸の滝に向かいました。パーフェクトな富士山をお見せしようと朝霧高原を通りましたが、残念ながら雲に覆われ、富士山は部分的にしか見えませんでした。俗化することなく自然いっぱいの静かな田貫湖畔の散策は、とても気に入ってくれたようでした。珍しい植物や小鳥たちに出会えると、あちらこちら注意深く眺めて楽しんでいました。豊富な水が幾筋にも流れている白糸の滝にも感動したようでした。

翌日は日本を発ち、週末にはイギリスでパーティーがあるため、土産等を買いたいという要望もあって、100円ショップに案内。みそ汁はお気に入りのようで早速インスタントみそ汁を買い、その他30種類以上の品物を吟味して買い、良い土産が出来たと喜びました。

彼は大のコーヒー好き。しかし、コーヒーを飲むチャンスがあまりなかったそうで、レストランでは十分味わっていません。嬉しかったのは、朝食に出した私の手作りポテトサラダが「レストランのどのサラダより美味しかったよ」と褒めてくださったことでした。

今回は友達も一緒だったので話題も広がり、ヘンショウ氏もとても楽しんでくださいました。短いホームステイは、あっという間に終わってしまいました。

たかはし はい 高橋 敬さん



トンボの里を次世代に

清住町で生まれ、育ち、現在に至る。GW三島との関わりは、清住緑地が出来て以来。トンボ博士・朝比奈正二郎博士と縁の深い境川・清住緑地を守るべく、愛護会会長として見回りを行っている。最近、ヤゴやチョウの種類が目立って減少し、トンボがかえらなくなっていることが気がかり。中にはヤゴを持ち帰る子どももいて、子どもたちへの生態系に関する教育の必要性を感じている。また、GW三島と協働で緑地をさらに整備し、ホテルが飛び交う場所にもしたいと願っている。

代々地元の農家であることから、田おこしから収穫までの米作り、さらには餅つきまで、三島市立西小学校の児童に指導。地域の世話役を長く務めていて、「死ぬまで地域に尽くしたい」と思っている。三島夏まつりの「大通り山車シャギリ大会」のイベントは、祭り好きの高橋さんが先頭になって始めたものだとか。

好きな言葉は「正直に生きること」。

さとう はるよ 佐藤 晴代さん

笑顔あふれる三島街中カフェ



呉服屋の一人娘として、三島市小中島（現本町）で生まれ育つ。結婚後は旭ヶ丘に住居を構え現在に至る。家業を継ぐため、京都へ修業に行ったことが、青春時代の思い出となっている。

GW三島とは、7年前に受講した湧水インストラクター養成講座からの関わり。動機は、市内の河川の水量が減少していくことが気になり、その理由を知りたいと思ったこと。

現在は2年前にオープンした「三島街中カフェ」のスタッフとして店番を担当。また、本年はインターンシップでの受講生の案内を始め、GW三島事務局での各種印刷物の作成や発送などの仕事に携わった。

趣味は美術館巡り。特技は布を裂いて織り、洋服などに仕立てる「裂織（さきおり）」。笑みを絶やさない佐藤さんの願いは「三島街中カフェを、もっと多くの人が集う場所にしたい」。

パッション No.11

地域の宝に磨きをかけよう

～タウンミーティング「どうあるべきか楽寿園」～

楽寿園は、三島駅前という立地にあり、自然豊かな森に囲まれた景観、歴史、文化を有する。三島市の財産ともいえる楽寿園を守り、活用し、三島市のシンボルパークにしたいと、当会議所創立50周年の長期ビジョン戦略とした。

その一環として、市民が主体的に街づくりに参加出来るタウンミーティング「どうあるべきか楽寿園」を企画した。第1回目は三島市ふるさとガイドによる園内の案内、名勝たる地理的要素、景観、緑豊かな自然などの現状や、来園者の多い県外施設と比較し、楽寿園に足りない要素なども学んだ。

第2回目「楽寿園を語ろう！」では、元三島市議会議員を中心に、楽寿園の可能性について意見交換を行った。参加者の意見は、三島市や関係諸団体へも報告される。

(社)三島青年会議所 まちづくり委員会委員長 伊丹 克明



昨年のシンポジウム風景

中学生がGW三島で職業体験

三島市の中学校では、「社会規範を身に付け、健全な職業観を持ち、夢のある将来が計画できる生徒を育成したい」という趣旨の下、2年生が様々な事業所で職業体験をする。GW三島でも毎年、職業体験学習を受け入れていて、11月1、2日には三島市立中郷中学校の男子2名、24、25日には三島市立北中学校の女子2名が体験した。

- ★ 源兵衛川の歴史や生き物、ミシマバイカモについて学んだあと、川に入った。足が痛くなるほど冷たかった。ミシマバイカモやゲンジボタルが一度絶滅したと聞いて驚いた。
- ★ 田んぼ3反分の遊休農地に堆肥をまいた。1袋20kgの堆肥を60袋も運んで疲れた。農家は大変だと思った。
- ★ ミシマバイカモの汚れを取り除く作業をした。大変そうだと思ったが、どんどんきれいになっていくのを見てると、とても癒された。地域の人の作業を見て、環境を守ることは簡単なことではないと感じた。
- ★ ソバのみがき作業を体験した。実と他の物を分けるのに、昔使っていた道具で作業をした。失敗もしたが、慣れると楽しくできた。

昔の道具は、回しながら風を送ると、実と他の物とを分けることができる。回すスピードが難しかった。



元気工房の人の指導で、竹灯籠を製作中



ミシマバイカモの作業を終えて

鎮守の森探検隊

第2回 7月30日 山田川(三島市)「光を灯して夜の虫の観察会」

講師：池田 二三高、大庭 悦司、杉本 武 42名参加

「山田川グリーンツーリズム研究会」の方から山田川流域の環境についての話があり、講師から標本をもとに昆虫の説明があった。外が暗くなってから、3種類のライトを使って虫を呼び寄せ昆虫採取が始まった。10種類のコガネムシ、5cmほどのミヤマカミキリ、シンジュサン、オオミゾアオなどの大きなガも捕まえて、参加者は大喜び。また、吸虫管という珍しい器具(掃除機のように虫を吸い込み、1度にたくさんの虫を捕まえることができる)も見せてもらった。ライトアップや吸虫管を使っての昆虫採取は、普段体験できない観察ができ、驚きの連続だった。



昆虫の標本を見る



葉の形の違いを知る



チョウの話聞く



三嶋大社の歴史を学ぶ

光を灯して観察

「三嶋大社の森は照葉樹林帯(インドから日本まで広く分布)に属し、太古から存在する木が多い貴重な森である」と説明があった。その後、資料をもとに葉の形(全縁か鋸歯縁か)から木の種類を見分け、樹皮や木の大きさにも着目してモッコク、カゴノキ、アラカシなど9種類の照葉樹を見つけ観察した。森に棲む虫たちを次から次に見つけ、その特徴、生態の詳しい説明も受けた。モンキチョウ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミなどのチョウ、アキアカネ、オオズアリ、アメイロアリなど9種類のアリ、ハラヒロカマキリ、ミスジマイマイ、ジョロウグモ、ルリチュウレンジなどたくさんの虫が観察できた。また、シジュウカラ、メジロ、カワセミなどの鳥も見られ、耳を澄ますと、虫や鳥の声、風にそよぐ葉の音など豊かな森の気配が伝わってきた。

虫や植物の観察だけでなく、大社の方から三嶋大社の歴史も聞くことができ、参加者のひとり、田町在住の大学生は「近くに住んでいても知らないことばかりだった。自然のこと木の種類などが分かり、参加してよかった」と感想を述べた。

「三嶋大社の森は照葉樹林帯(インドから日本まで広く分布)に属し、太古から存在する木が多い貴重な森である」と説明があった。その後、資料をもとに葉の形(全縁か鋸歯縁か)から木の種類を見分け、樹皮や木の大きさにも着目してモッコク、カゴノキ、アラカシなど9種類の照葉樹を見つけ観察した。森に棲む虫たちを次から次に見つけ、その特徴、生態の詳しい説明も受けた。モンキチョウ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミなどのチョウ、アキアカネ、オオズアリ、アメイロアリなど9種類のアリ、ハラヒロカマキリ、ミスジマイマイ、ジョロウグモ、ルリチュウレンジなどたくさんの虫が観察できた。また、シジュウカラ、メジロ、カワセミなどの鳥も見られ、耳を澄ますと、虫や鳥の声、風にそよぐ葉の音など豊かな森の気配が伝わってきた。

虫や植物の観察だけでなく、大社の方から三嶋大社の歴史も聞くことができ、参加者のひとり、田町在住の大学生は「近くに住んでいても知らないことばかりだった。自然のこと木の種類などが分かり、参加してよかった」と感想を述べた。

三島再生に取り組む4協議会発足・活動展開中

平成23年度から、三島市で農村環境の活用促進・観光と連携した都市農村交流推進活動をすすめている。その事務局をGW三島が担っている。今回、その組織を役割別に4つの協議会に再編した。

*ふるさと三島・農と街中連携協議会

三島市の山・里・街中の地域資源を再生・活用した「コミュニティビジネス」の展開と「にぎわい再生」を学ぶ。

*松毛三日月ふるさと協議会

松毛三日月「ふるさとの原風景」再生への取り組み。

*水の都・三島街中再生協議会

水の都・三島の「街中」の農村資源・環境資源の保全・活用によるにぎわい創出

*箱根西麓ふるさと環境再生協議会

食と健康を生む! 「山」の地域資源再生活用

それぞれの活動の現状と課題から、人材育成・雇用創出など将来像を構築。そこから具体的な目標を掲げ、事業の役割・取り組み内容を検討し事業展開している。総事業費は各協議会250万円、交付金で賄われている。

防災用竹製ホイッスルの製作

障がい者就労支援B型事業所アルシオン(鈴木俊昭施設長)からシニア元気工房に、防災用竹製ホイッスル製作の依頼があった。

東日本大震災時、障がい者の被災の割合は障害のない人の倍にあたり、命をなくした人も多い。また、震災の影響で下請け作業も減少しているため、「防災」から「減災」に向け、リサイクル製品を利用した3点セットが考案された。セット内容は黄色いハンカチ(避難したことがわかる目印)・竹製ホイッスル(避難を求め、居場所を伝える)・ローソク(非常時用)。竹製ホイッスルは放置竹林の竹材を活用し、7~8cmの筒状で、吹き口が分かるよう下部にリボンがつけられている。



ホイッスルを製作中



竹製ホイッスル

グリーンジョブ研修(第1回境川・清住緑地 第2回、第3回三島市内で実施)

10月22、23日第1回のグリーンジョブ研修「住民参加の公園づくりを学ぶ」が境川・清住緑地で行われた。「境川・清住緑地」はGW三島が地域住民と行政の仲介役を担い、計画段階から住民参加による事業が推進され、現在は「境川・清住緑地愛護会」が中心になり公園の整備を行っている。

1日目は稲刈りの予定だったが、雨のため翌日に延期。公園の視察と愛護会の方の説明、愛護会の渡辺昭信事務局長からの境川・清住緑地、愛護会の歴史、GW三島との関係などの話を聞いた。



2日目は午前GW三島の渡辺豊博事務局長によるワークショップ、午後は稲刈り。ワークショップでは「境川・清住緑地の課題と今後」について愛護会、GW三島のスタッフなど高校生から80歳の方まで幅広い層で、維持管理や補修のあり方について議論を重ねた。稲刈りは、地元の子どもたちや保護者も参加、今回収穫した米は12月の餅つき大会で使われる予定。この2日間、参加者は自然とふれあい、楽しんだ。

「帰れソレントへ」は歌のワイロだった？

情感あふれる「ナポリ民謡」として、日本人にもなじみ深い「帰れソレントへ」誕生には、謎が多い。

そもそも「ナポリ民謡」とは言うものの、本当の舞台は、ナポリ湾をはさんで対岸の「ソレント」だし、歌自体も「民謡」などではなく、作詞・作曲者もはっきりとした「歌謡曲」だ。



そもそもこの「ソレント」は、切り立った崖の上に開かれた街で、その名も、ホメロスの大抒事

詩「オデッセイア」に登場する美声の人魚で、船乗りを誘惑し、船を難破させる魔の乙女に由来するということだから、謎めいた話が多いのも仕方のないのかも知れない。

19世紀後半、ようやく統一されたイタリアの、ソレント半島の先端の、小さ



な田舎町・ソレントには、まだ郵便局がなかった。

そこへ1902年、時の首相がソレントを訪れることになり、郵便局ばかりでなく、さまざまな経済的支援を期待して、来賓をもてなす為に献上したのが、この「帰れソレントへ」だ。

曲作りの依頼者については、町長だったという説と、元の貴族の邸宅を改造した高級ホテルのオーナーだったという説があり、はっきりしない。

作詞・作曲は、ナポリ出身のクルティス兄弟だが、前もって作ってあった曲だとする説と、兄弟がホテルで罐詰めになって作ったとの2つの説がある。

元々の歌詞は、もっと町（ホテル）のCMっぽかったものを、後に自分の許を去った恋人への呼びかけという意味に改作されたとの説もある。

いずれにしろ、この曲はナポリの民謡祭りのコンクールで優勝し、ナポリの生んだ天才テノール、エンリコ・カルソーが歌って、たちまち世界に広がった。

日本でも昭和7（1932）年、「我がテナー・藤原義江」の名唱で、一躍有名になり、今ではテノール歌手の定番曲ともなっている。



それにしても、——「時の首相への新曲のプレゼント」だなんて、南イタリアならではの、何と粋で、心をくすぐる「ワイロ？」じゃありませんか。

「帰れソレントへ」

藤原あき 訳詞

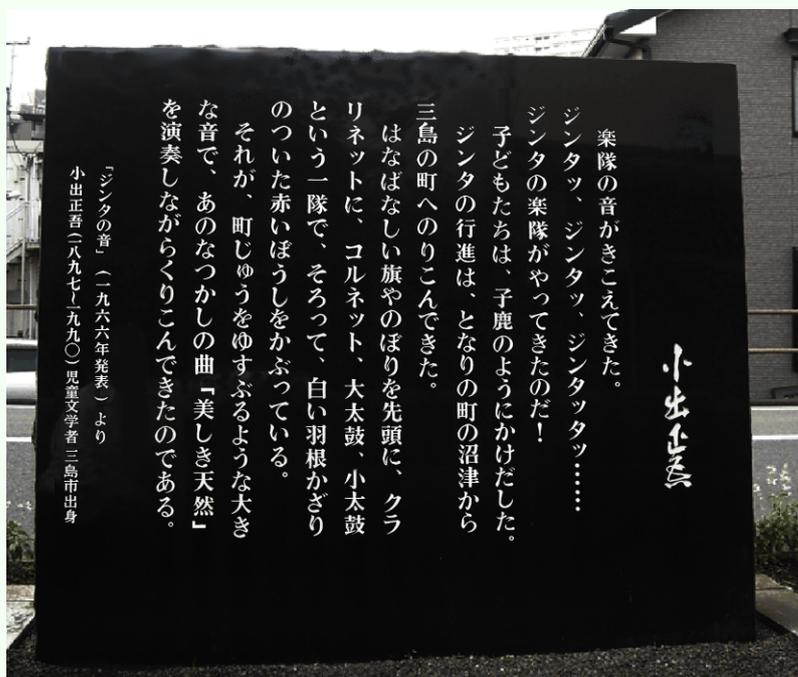
みよこの海原 波のささやきは
君の情けある 声音(こわね)と似たり
(中略)
帰れソレントへ
ああ 帰れ



過ぎゆく三島 いつまでも その8

「子どもには 子どもの世界がある」という 児童文学者・小出 正吾

小出 正吾（明治30年～平成2年、1897～1990）児童文学者。三島市立図書館には“移動図書館車ジンタ号”がある。水辺の文学碑にあるジンタとは、サーカスなどの宣伝のため、その時代に流行している曲を管弦楽器や太鼓などで演奏しながら市中を宣伝して歩く楽隊のこと。日露戦争終了の2年後、正吾10歳の時、移動動物園が沼津で開催され、その宣伝のため三島に来たジンタの一行に夢中になった子どもたちが、テクテクと歩いてその動物園を見に行った時の光景だ。この作品を含む全6編※の童話集『ジンタの音』は、昭和50（1975）年、「第13回野間児童文芸賞」受賞。この時の賞金を基に、“移動図書館車ジンタ号（初代）”が購入された。そして今なおジンタ号は三島市内を巡回し、子どもたちばかりか大人にも夢を送り届けている。



小出正吾の生家が三島市役所近くには、彼自身の言葉“子どもには 子どもの世界がある”との碑が置かれている。彼の作品『白い雀』の中で「たしかに白い雀を見た」という主人公に対し、友達は「居るはずがない」と否定する。そんな主人公の思いを、“純真な子どもの目だけが見ることの出来た不思議な世界だったに違いない”と結んでいる。

三島ゆかりの映画監督・五所平之助は、失われつつある水の都・三島の原風景を留めおこうと自らメガホンを取り『わが街三島—1977年の証言』を撮影。その映画に出演した小出正吾は、ふるさと三島への思いを熱く語っている。

三島を舞台にした彼の多くの作品は、三島に生まれ育ったからこそであり、「小出正吾児童文学散歩道」と銘打って現在、小出正吾児童文学顕彰会が、作品の舞台を地図にまとめている。

※ ①ジンタの音②おとぎ芝居③逢う魔が時④芭蕉の庭⑤来年の春⑥やきいも

ご寄付を
ありがとうございました。

「子どもを元気に！
富士山プロジェクト」のために

*ファミリーマート函南畑毛店様
39,450円

*みしまプラザホテル様、さんしん
同友会二日町支部様 238,000円

*募金：個人と企業 61人・団体
2,065,294円
(上記2件除く)

三島市内の写真集

【投稿方法】

撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日、一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。 Eメール：info@gwmishima.jp

平成23年夏 三島の水辺 写真集



『桜川で憩う子どもたち』
奥貫真里子さん撮影



『互いにいい感じの源兵衛川右岸・左岸』
濱口晶子さん撮影



『楽寿館のギヤマンガラス越しに』
本田博子さん撮影

GW三島活動記録 2011年8月1日～2011年11月30日

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数
8	5	金	子どもを元気に富士山プロジェクト(8/5～8)	大学生出前寺子屋宿・富士山に登ろうツアー	富士山他	328
8	6	土	鎮守の森探検隊	③冒険しよう！カヤックに乗って狩野川下り	狩野川	25
8	11	木	三島南高ビオトープ	メダカ引越し作業	三島南高ビオトープ	10
8	12	金	鎮守の森探検隊	④調べてみよう！川の水质と川虫の関わり	源兵衛川	41
8	13	土	源兵衛川専門委員会	今年度の調査計画、環境保全指針の検討	Via701・1階ホール	15
8	13	土	源兵衛川生き物観察会	①源兵衛川に入って魚や川虫をしらべてみよう	三石神社集合	42
8	19	金	クラブツーリズム内定者研修	源兵衛川湧水めぐり	源兵衛川	88
8	21	日	三島南高ビオトープ	池底の泥のかき出し作業(PTA奉仕作業)	三島南高ビオトープ	10
8	27	土	鎮守の森探検隊	⑤風を感じて海から観察！地球の歴史と雄大さ	駿河湾	25
8	27	土	源兵衛川生き物観察会	②源兵衛川の川虫と野鳥をかんさつしよう	水の苑緑地集合	26
8	28	日	そばつくり隊	三島そば種まき作業	箱根西麓	40
9	11	日	鎮守の森探検隊	⑥魚つき林を探検！海と森との不思議な関係	三ツ石海岸	35
9	11	日	源兵衛川生き物観察会	③水辺とふるさとの植生植物をさぐってみよう	ひろせ橋集合	18
9	13	火	鐘坂ミニ公園	リニューアル作業	鐘坂ミニ公園	7
9	18	日	松毛川生き物観察会	夜に鳴く虫の観察会	松毛川	43
9	23	金	子どもを元気に富士山プロジェクト(9/23～25)	「心を元気にするショートツアー」静岡県内避難者	伊豆	140
9	28	水	水の都・三島街中再生協議会主催	三島街中カフェにぎわいイベント・笑顔のコーチング	三島街中カフェ	20
9	29	木	子どもを元気に富士山プロジェクト	bj-KBLチャンピオンシップゲームズ	グランシップ	139
10	4	火	エンジェル・ピースプロジェクト(10/4～11)	静岡伊勢丹販売イベント	静岡伊勢丹	12
10	8	土	子どもを元気に富士山プロジェクト(10/8～10)	「心を元気にするショートツアー」石巻開北FCサッカー交流	伊豆	132
10	15	土	境川・清住緑地愛護会	稲刈り作業	境川・清住緑地	80
10	16	日	鎮守の森探検隊	⑦ふるさとの宝物・昆虫と植物の観察会	三嶋大社	24
10	22	土	富士市水辺のツアー	富士市水辺のツアー	富士市	10
10	22	土	ふるさと三島・農と街中連携協議会主催	第1回グリーン・ジョブ研修-1(稲刈り)	境川・清住緑地	10
10	23	日	ふるさと三島・農と街中連携協議会主催	第1回グリーン・ジョブ研修-2(ワークショップ)	境川・清住緑地	11
10	28	金	子どもを元気に富士山プロジェクト	エクレール「お菓子放浪記」上映会 募金活動	ゆうゆうホール	7
10	30	日	子どもを元気に富士山プロジェクト	日大富祭祭「大地の唄」上映会 募金活動	日大三島	2
11	3	木	そばつくり隊&キャノンMJ協働事業	そば収穫	箱根西麓	40
11	5	土	そばつくり隊	そば収穫	箱根西麓	20
11	6	日	水の都・三島街中再生協議会主催	お仕事体験①カフェでのイベント企画	三島街中カフェ	13
11	11	金	援農活動	堆肥まき	御園小麦畑	4
11	12	土	松毛川千年の森づくり	植林体験	松毛川	8
11	12	土	松毛川千年の森づくり	座学：松毛川の植生、野鳥	御園公民館	5
11	12	土	水の都・三島街中再生協議会主催	お仕事体験②駄菓子屋さん仕入体験	三島街中カフェ	13
11	12	土	ふるさと三島・農と街中連携協議会主催	第2回グリーン・ジョブ研修-1(竹林間伐)	大場地区	19
11	13	日	ふるさと三島・農と街中連携協議会主催	第2回グリーン・ジョブ研修-2(宝物さがし)	大場地区	15
11	13	日	境川・清住緑地愛護会	講義①湧水と森の宝物、境川・清住緑地の魅力	境川・清住緑地	22
11	20	日	水の都・三島街中再生協議会主催	お仕事体験③万華鏡づくり	三島街中カフェ	13
11	22	火	境川・清住緑地愛護会	講義②住宅街のオアシスに集う野鳥たち	境川・清住緑地	19
11	22	火	チャリティコンサート(大震災復興支援)	遠藤いづ子ハートフルチャリティーコンサート	みしまプラザホテル	220
11	23	水	松毛川千年の森づくり	清掃活動	松毛川	30
11	26	土	ふるさと三島・農と街中連携協議会主催	第3回グリーン・ジョブ研修-1(環境コミュニティビジネス)	三島市内	15
11	27	日	ふるさと三島・農と街中連携協議会主催	第3回グリーン・ジョブ研修-2(パンチづくり)	鼎立三島南高校	15
11	27	日	松毛川千年の森づくり	植林体験	松毛川	20
11	27	日	水の都・三島街中再生協議会主催	お仕事体験④農業体験	三島街中カフェ	13

視察来訪者記録 H23.8.1～H23.11.30

月	日	団体名	人数	地域
8	8	民主党府中市支部/府中・生活者ネットワーク	8	東京
8	19	総和集落センター運営連絡協議会	40	茨城
8	25	台日河川団体	25	台湾
8	27	中国青年代表団(FND)(8/27～28)	80	中国
8	28	第51回社会教育全国集会実行委員会	40	東京
9	8	東松山市行政パートナー連絡協議会	98	埼玉
9	13	みしまプラザホテル(女将さん)	10	静岡
9	14	みしまプラザホテル(事業主)	45	静岡
9	27	焼津第2自治会	30	静岡
10	17	香川県まんのう町議会建設経済常任委員会	10	香川
10	20	千葉県東金市役所企画政策部企画課市民協働係	2	千葉
10	21	諏訪地区社会教育委員連絡協議会	40	長野
10	21	JICA国際協力機構シリア国研修員	9	シリア
10	25	大阪府土地改良事業団体連合会	70	大阪
10	27	椋原地区社会教育委員連絡協議会	28	静岡
11	5	十州花紀行	25	長野
11	8	埼玉県春日部市議会緑新クラブ	4	埼玉
11	8	つみかごの会	16	山梨
11	11	館林市環境保全委員協議会	70	群馬

ようこそ！海外からGW三島の視察に！ シリアから【10月21日(金)】



シリアからの来訪者は皆、源兵衛川や宮さんの川のきれいな湧水に感激していました。GW三島事務局や三島街中カフェにも寄り、GW三島の様々な取り組みについて時間をたっぷりかけて視察しました。若い女性は、「来日できるなんて、またとないチャンス」と、熱心にカメラを向けていました。



〈定例作業〉

三島梅花藻の里 17回
鏡池ミニ公園 4回
桜川 4回
宮さんの川 毎日
源兵衛川 21回
沢地グローバルガーデン 4回

〈定例会〉

インストラクター会議 4回
スタッフ会議 1回
編集会議 8回
地域社会雇用創造事業会議 4回
三島街中カフェ開店日 89日

GW三島事務局の新スタッフとインターン生



かつまたようこ
勝亦洋子



かとうまりこ
加藤真理子



かなざわまりこ
金澤真理子



ばば
馬場さつき



やまだゆきひろ
山田幸弘



やまもとしょうへい
山本祥平

グラウンドワーク三島編集室

ボランティアニュース 45号の編集ほか
岸野和子 城所恒弟 小松幸子 斎藤彩子
菅野京子 本田博子 前田充子 水野幾子
村澤 圭 山崎多紀子 (50音順)
(GW三島事務局担当：山田昭子)